

関係者70名が参加

羽田地区新年交賀会が盛大に開催

今野桃果さん、高橋清菜さんにさわやか賞が贈呈

1月13日(土) プラザイン水沢を会場に、「令和6年羽田地区振興会新年交賀会」が関係者70名参加のもと開催されました。

昨年は、新型コロナウイルス感染者の増加により開催が危ぶまれた中で、来賓の方を限定しての開催でしたが、今年度は代議員、一般会員まで案内範囲を拡大しての開催でした。

はじめに、この新年交賀会の席上において、スポーツなどで

振興会だより

令和6年1月24日発行
編集・発行 羽田地区振興会
編集 羽田地区センター

活躍され、町民に元氣と勇氣を与えた方に振興会から「さわやか賞」が贈呈されました。今年度は、外浦行政区の今野桃果さん、川前行政区



「さわやか賞」を受賞された今野桃果さん、高橋清菜さん

の高橋清菜さんが受賞の榮に輝きました。

桃果さんは、昨年10月に開催された特別全国障害者スポーツ大会「燃ゆる感動鹿児島大会」において陸上競技聴覚障害1部女子200Mで優勝、清菜さんは、昨年9月に群馬県

で行われた「第3回全日本マスコキング選手権大会」ユース女子160cm以下の部において3位入賞が評価されての受賞でした。

続いて、橋本羽田地区振興会会長が主催者挨拶の中で、昨年度は、「故郷の花火」「羽田躍進まつり」「4年に一度の自主防災訓練」が実施でき、大きな成果を収めた年であった。令和6年度も「災害に強いまちづくり、賑わいのあるまちづくり」に取り組んでいきたいと抱負を述べました。

開催予定

水沢地区振興会・町連協等交流懇談会

1月26日(金)に水沢サンパレスホテルにおいて、令和5年度水沢地区振興会・町連協等交流懇談会が22名の出席のもと開催されます。

この会は、地域コミュニケーション活動の推進や地域課題への対応に取り組んでいる各振興会・町連協が一堂に会し、情報や意見交換を行う場として開催されているものです。

今年度は、市から奥州市長代理として高橋寿幸水沢総合支所長、そして市議会からは議長代理として東隆司市議会議員に出席いただく予定です。

また、還曆者を代表して田茂山行政区の及川貢基さんが、「還曆を迎え、今後一層氣を引き締め地域に貢献したい」と決意の言葉を述べました。

その後、民謡歌手の佐藤文司さんの祝い唄が披露され、終始和やかな雰囲気の中で会が進められました。羽田の発展を願い、町民一同が会し挨拶、意見交換がなされ、とても有意義な会となりました。

令和2年度に羽田地区振興会が幹事当番を引き受け、コロナ禍にあつて毎年中止になっておりましたが4年振りの開催となります。

伐採されます

体育館裏のヒバの木

このほどの市の配慮により、地区センター体育館裏にあるヒバの木11本を伐採していただくことになりました。

これまで落ち葉が溜まったり、冬期間には道路わきに寄せられた雪が塊となり、井筒医院様には駐車場からの車両の出入りをはじめご迷惑をお掛けしておりました。

今回の伐採により、景観上は勿論、通行上も支障がなくなります。

令和5年度

振興会長等研修会

農村を支える新たな体制・新たな取り組み

1月19日(金)、令和5年度第2回奥州地域会議兼地区振興会長等研修会が、江刺総合支所多目的ホールにおいて開催されました。

当日は、市内30地区から振興会役員57名の参加があり、羽田地区からは橋本振興会長、今野センター長が参加しました。

第1部では、伊手地区振興会事務局長である境田氏より、「日出る伊手の農村RMOへのチャレンジ」と題し事例発表がなされました。

伊手地区は高齢化率53%で、農業生産活動のみならず、地域資源(農地、水路等)の保全や生活(買い物、子育て)など集落維持に必要な機能が弱体化しています。農家、非農家が一体となり様々な関係者と連携し、地域コミュニティの機能を維持、強化することが求められています。

これらの課題解決を図るため、伊手振興会は以下3点に取り組みんでいることを発表しました。①キャンプなどを誘致し小学校跡地を活用しての地域資源の維持・管理に努めていること ②耕作調査、有害鳥獣被害

及び対策調査をし農用地の保全に努めていること ③地域内交通「いで・ごー」の施行運転により住民の生活支援に努めていること。

第2部では、「伊手地区への市の人的・財的支援体制の重要性」「能登半島地震被災者に対する奥州市としての支援内容やスケジュール」「市の未来羅針盤プロジェクト事業は各課ごとの対応ではなく全市職員が同じベクトルで対応することの必要性」などに関し、市の見解を問う質問がなされました。



農村RMOの体制は、振興会組織を再編し新たな組織で対応しています

羽ねっちの会 「ふれあい食堂」を開催 ◇◇ミズキ団子作りで交流を深める◇◇

羽ねっちの会(代表 小野寺美代子)は、令和6年1月14日(日)羽田地区センターにおいて、「ふれあい食堂」を開催しました。この食堂は、子どもたちと地域の方々との触れ合いを深めてほしいという願いから実施されたものです。

当日は、羽ねっちの会会員である羽田地区食生活改善推進員7名、川前老人クラブ会員13名、児童と保護者22名、計42名が参加しました。児童たちは老人クラブの皆さんからご指導を受けながら

ミズキ団子づくりをし、ミズキに飾り付けました。

参加した児童はおみやげに飾り付けたミズキと羽ねっちの会特製の「きな粉餅」をそれぞれ持ち帰りました。

羽黒堂から参加した、千葉蘭さん(小学2年生)は、「落ちたりして飾り付けが難しかったが、お母さんと妹と一緒にでき楽しかった」、また川前から駆け付けてくださった梅原武夫さんは、「白や杵を使つての餅つきは50年振りかな。昔からの伝

統を引き継いでいきたい」と話していました。



【主催】
【協力】

- 羽ねっちの会
- 愛護会
- 奥州市社会福祉協議会
- 羽田地区振興会
- 地域福祉推進協議会羽田支部
- 羽田地区食生活改善推進員協議会